



# 新春を迎えて

南富良野町長 池部 彰

平成二十一年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、アメリカのサブプライム・ローン問題に端を発する金融危機が世界的な拡がりを見せる中で、国の経済は大変厳しい状況になっております。また、汚染米の不正転売をはじめ、食品の産地偽装などの不祥事が続発し、食の安心と安全が大きな社会問題となりました。国政では厚生年金記録の改ざんをはじめ省庁での不祥事が相次ぎ、国民の政治不信が一層進んだ一年でもありました。一方では、北京オリンピックが開催され、道産子選手の活躍や日本女子ソフトボールチームが悲願の金メダルを獲得するなど、明るい話題も記憶に新しいところでございます。

さて、昨今の経済情勢において、本町では、購買力の減少や流出など、町内消費の落ち込みに改善の兆しが見えない状況の中、町といたしまして、商店企業の経営安定のため、町公共工事であります普通建設事業費の確保や商工会への助成、新規事業に対する補助金制度のほか、マイホーム建設促進制度など、町内商工業の活性化を側面から支援する事業として推進してきたところであります。今後とも、商工業者の皆様と商工会、行政の三者連携に、消費者であります町民の皆様のご協力

をいただきながら、商工業の振興発展に努めてまいります。

基幹産業である農業振興につきましては、ふらの農業協同組合が検討されており、ポテトチップス製造工場が、昨年十一月五日、本町に建設することが正式に決定されました。ふらのの農協が建設するポテトチップス製造工場は、幾寅地区に建設され、本年十一月から通年稼働する予定であります。工場での雇用人員は四十三名程度であり、本町の雇用情勢や地域経済の閉塞感を実感する中で、工場建設がもたらす本町の地域振興への効果に大きな期待をしております。町といたしましては、基幹産業である農業振興と雇用の場の確保、地域経済の活力再生を目指す中で、農業生産者をはじめ、町民皆様の期待に沿った事業となりますよう協力をしてまいります。

地域福祉につきましては、昨年五月、社会福祉法人南富良野大乗会の運営により特別養護老人ホーム「ふくしあ」が開設されました。「ふくしあ」は、金山・下金山地区の地域振興や若者定住対策などの総合的な視点をもちまして建設しました富良野沿線初となる完全個室施設であります。定員は五十名であり、富良野沿線五市町村から四十三名の方々が入所されております。また、新たに三十五名の職員の方が雇用されまして、金山・下金山地区にそれぞれお住まいになられたところであり、人口の減少傾向に歯止めをかけること

ができたところであります。今後につきましては、福祉事業の担い手となる大乗会や社会福祉協議会、さらには、町民皆様のご意見をいただきながら、地域で支えあう福祉の構築を目指して取り組んでまいります。

今、地方自治体は、国の行財政改革、三位一体改革・骨太の方針による税制構造の見直し、さらには、国政の不透明さなどにより、財政状況は厳しさが一段と増し、極めて危機的な局面に立たされています。今後、「南富良野町」であり続けるためには、これからの行政サービスを行政と町民皆様との役割分担の中で、「自ら行う自助、地域で支えあう共助、それらを補完する公助」を最大限に実現し、まちづくりを進めていかなければなりません。そのためにも、町民皆様のご理解とご協力による「参画」と「協働」が必要不可欠であり、これまで以上の「行政とのパートナーシップ」を町民皆様にお願

い申し上げます。平成二十一年につきましては、本町財政の見通しが大変厳しい中ではあります。町民の皆様と意識を共有して、持続する「南富良野町」の建設に向けて、町職員一丸となり、本町のまちづくりに最大限の努力を傾注させていただくことを申し上げ、町民皆様のご健康とご多幸をご祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成二十一年 元旦

# 年頭にあたって

南富良野町議会議長 佐々木 薫

町民の皆様には、平成二十一年の輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返って見ますと、国内情勢では、中国製ギョーザや三笠フーズの汚染米発覚など食の安全を脅かす事件が続発、さらには福田首相が退陣し麻生新内閣が発足、また、四月一日には七十五歳以上を対象とする後期高齢者医療制度が導入されましたが、保険料の年金天引きで混乱するなど、国民生活に大きく係わる出来事が相次いで起きました。さらに、教員採用汚職事件や国土交通省北海道局長が談合の疑いで逮捕され、開発局の廃止問題が加速するなど、政治とカネ、官僚と企業の癒着が問題となる大変憂慮すべき状況となっております。

道内にあつても、札幌市や森町で発覚した官製談合や滝川市の生活保護費詐取事件など暗いニュースが多い一年でありました。

そんな中で、十月には四名の科学者が、ノーベル物理学賞と化学賞を受賞され、また、八月に開催された北京オリンピックでの道内選手の大活躍、女子柔道や体操で多くのメダルを獲得し、道民の皆様が元氣と勇気を与えてくれたことは明るい話題でありました。

本町においては、大きな災害もなく平穏な一年であったと思えます。

そうした状況の中で、基幹産業を見てもみまると、農業については、昨年は融雪が早く農作物の蒔き付け作業が順調に進んだところであり、春先に強い霜などの影響を受けて、農作物全体の初期生育にやや遅れが見られ、八月上旬の降水量不足も加わり、農作物の生育に影響があったものの、その後の天候に恵まれたこともあり、作物はほぼ平年並みとなりました。

林業については、依然として厳しい状況であります。輸入材が減少し国産材が徐々に向上と進んでいます。林業労働者の減少や高齢化による林業担い手対策については深刻化しています。また、地球温暖化問題など森林の多面的機能を今後も守り温室効果ガスの削減に努めていかなければなりません。

商工業については、国の公共事業の更なる削減などにより、建設業者の方々は特に厳しい状況にあると思えます。また、商店を経営している方々も、経済不況による購買力の低下、消費者の町外流出など大変厳しい状況が続いています。商工会員の皆様の協力を体制など一層の努力をお願いし、この厳しさを乗り越えていただきたいと思います。

観光協会が、NPO法人南富良野まちづくり観光協会として設立され三年

目となりますが、観光振興を住民・商工業者の視点で取り組む体制が出来たことで、地元産業と観光振興の連携が図られるものと期待しています。

このように厳しい町内経済が続いている中で、加速する過疎化と高齢化に対応するため、「地域振興」や「医療対策」福祉サービスの向上をめざして、金山地区に昨年五月に開設した、特別養護老人ホーム「ふくしあ」は、新たな地域福祉の拠点として、大きな期待が寄せられているものと思えます。

九月には、富良野広域連合が設立され、地域の住民がより連携し後世に誇れるような、「小さくても輝き続けるまち」を創るとともに、さらなる行政の効率化や住民福祉の増進が図られるものと思えます。

私たち九名の議員は、住民の意向を十分くみとり町民の代表機関として、皆様の付託に応えるため、地域振興に総力を挙げて取り組んで参りますので、一層のご協力をお願い申し上げます。

新年がスタートしましたが、町民の皆様におかれましては、益々のご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成二十一年 元旦

